

商店への被害

「関東・東北豪雨災害」境町被害状況

製麺機械が水没 70年の歴史に幕

白井商店（製麺業）



▲店舗の正面

▲長年使用されていたばかり

▲大雨当日の水位を示す忠さん

「白井商店」は創業以来70年、現在まで三代続く、町内ほとんどの飲食店に麺を提供している製麺店です。先代の忠さんに豪雨被害について話を伺いました。

「午後7時頃から玄関先に水が入ってきて、みるみる水高が増し、11時頃には床上まで浸水した。製麺の原料となる粉を水から守ることが精一杯の状況だった。この家に住んで55年になるが、こんな浸水被害は初めてで経験がない。」

「損害は製麺機が水没し、壊れて生活の糧を失ったこと。特殊な機械で修理が困難なため、新品を購入すること考えたが、高額（1台約1,100万円）なことや、受注生産の機械が入るまでに3カ月かかってしまい、麺を提供し続けていたお客様へ迷惑を掛けてしまうことなど、色々迷ったが廃業することに決めた。自然の災害だから仕方ないと思うしかない」と、浸水の跡を見ながら振り返る忠さん。

現在、忠さんは80才を超えており三代目店主の章さんは、新たな職を探しているとのこと。

麺づくり職人として「何十年とお世話になつて居るお客様に麺を納められなくなったこと」が何より一番辛かったと話す忠さんの言葉が印象的でした。

大雨翌日から営業 お得意様のために

ながほり製菓（製菓業）



「ながほり製菓」は昭和28年から現在までおまんじゅうやお赤飯を販売している和菓子の製菓店です。先代康雄さんの奥さんの菊江さんにお話を伺うと「今回のような浸水被害は、ここに住んで50年以上経つが初めて」とのこと。

浸水によって、商品陳列用温度調整機能付面ケースや、冷凍庫用室外機、ボイラー用ポンプ等が壊れてしまいましたが、対面ケースは新品と入れ替え、ボイラー等もすぐに修理し、大雨の翌日も営業を行いました。

現在、その他の製菓用機械の入れ替えも検討している状況ですが、高額（1台約1,000万円）なため、おまんじゅうなど手作りの対応に追われているということでした。

「この災害では商店に対しての保証が得られなくて残念だけど、くよくよしていても仕方がないし、暗い顔をしていては商売にならない!! 大切なお客様のことを考え、営業を続けて行くことを決めました。」と話す菊江さんの素敵な笑顔に取材した私たちの方が勇気づけられた感じがしました。



▲取材当日もおまんじゅう作りが行われていた



▲水没して故障してしまった機械



▲大雨当日の水位を示す菊江さん